

事業所における自己評価結果(公表)

対象職員6名 回収6名
回収率100%

公表:平成 31年 3月 1日

事業所名 : きらり倉敷 (放課後等デイサービス)

チェック項目		はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			・エリアで分け、分散を図っている。	・引き続き、遊びの段階に合わせた環境設定を行っていく。
	② 職員の配置数は適切である	6				
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	1	2	・元々フロアはフラットである	・転倒や、建物の老朽化に伴う怪我等が発生した場合は、修繕を行い必要に応じてバリアフリー化する道具等を用意する。
業務改善	④ 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6			・業務目標管理シートを用いて業務改善を実施。	
	⑤ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			・ホームページに情報を掲載している。	・評価表により、受けた結果を元に事業の内容を検討し、満足度が高まるような支援を行っていく
	⑥ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6				
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6			・第三者評価を受けている。	
	⑧ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			・外部研修に多数参加している。 ・法人内、法人外にて実施している。	
	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5		1	・職員同士で話し合いを行っている。 ・まだ足りない現状を感じる	アセスメントシートを用いて、情報共有を密に図る。足りない部分は職員間で情報共有し補っていく。
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			・法人内のツールでは不十分。職員間で話をしながら行っている。 ・アセスメントシートを使って実施している。 ・聞き取りシートやKIDSを使用している。(KIDSについては7歳までのため適切ではない?)	・アセスメントツールについて再度見直しを図る必要がある。KIDSを取って保護者に配る意義を再度確認していく。
	⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っている	6				
適切な支援の提供	⑫ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1		・クッキングや課外活動を実施している。 ・努めてはいるが、固定化しがちである。	・児がきらりの生活に慣れるまではプログラムを固定化していくことが望ましい。昨年度より課外活動など工夫した活動を提供しているため、継続していく。
	⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	4		2	・今年度より、長期休暇に選択活動を設定している。	・次年度も選択活動は実施し、更に活動を工夫していきたい。
	⑭ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6				
	⑮ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6				

供	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったこと、疑問に思ったことはその都度話をしている。 ・連絡ノートを用いて周知を行っている。 ・打ち合わせはしていないが、気づいた点は職員で話をしたり連絡ノートにて共有している ・客観的にかけていないこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議において、ケース会議を行い、児についての情報共有を図ることが出来るようにする。
	17	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6				<ul style="list-style-type: none"> ・主観的に記入することを意識できるように、物事の前関係や関わりを持った人等を記述できるようにする。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6			<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に振り返りを実施。個別に合わせた課題を設定している。 ・相談員を交えたモニタリングを実施している。 	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っているか	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・選択活動にて、複数個組み合わせている(創作、クッキング等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインについて、再度内容を周知出来るようにする。 ・個々でガイドラインを読むように、責任者が情報発信する。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			<ul style="list-style-type: none"> ・責任者が参加している。 	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	5	1		<ul style="list-style-type: none"> ・学校によっては、行事について情報共有を図っている。 ・年間計画や行事は保護者を通じている ・送迎は行っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有シートを用いて、学校側との情報共有を行っていく。年間予定や行事の把握については、各学校に通う保護者を通して情報を集約する。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか				該当なし	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	2	1	3		引き継ぎの際には保育所や園と情報共有を行いながら学校へ情報を送っている。今後は相談員を含め、園と学校とが情報共有を行う場を設定していきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	1	1	3	<ul style="list-style-type: none"> ※無記入1 ・小学校二年生までの利用であるため、利用終了後の動向はわからない。 ・他事業所への移行時には、必要に応じて行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移行する際の情報共有は引き続き行っており、情報を求める声があれば、対応していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・センター移行児について情報共有を図っている。 ・過去に発達障害者支援センターに助言を受けたことあり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同法人内のセンターとも、児の移行に伴った際には情報共有を図っていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある			6	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの学校では行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より公共交通機関や公共施設を利用する活動を実施している。直接的な健全児とのふれあいはないため、今後設定していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している			6		<ul style="list-style-type: none"> ・参加する事から始めていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	1		<ul style="list-style-type: none"> ・月1~3回の利用であるため、タイムリーな共有は難しいことがある。 ・引き継ぎの際行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用頻度を揃えるように、保護者と話すポイント等を職員間で共有していく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5		1	<ul style="list-style-type: none"> ・希望者のみに実施 ・管理者が参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアトレ実施のみに留まっている。活動の報告を通信等に載せていく。
	30	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に責任者が実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、保護者の方に十分伝わるようにまずは責任者が十分内容を理解した上で話しを進めていく。
31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			<ul style="list-style-type: none"> ・引き継ぎや懇談の際に実施している。 		

保護者への説明責任等	③②	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	2	3	・座談会は実施しているが、放デイを対象としていない。 ・就学児は未実施	・学童児を対象とした「家族の集い」を検討していく。
	③③	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6				
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		1	・月1で通信を配布している	・ホームページにて、情報発信があったことを通信にて掲載し、閲覧数を増やす。
	③⑤	個人情報の取扱いに十分注意している	6				
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	1			・保護者の児への関わりについて、懇談や引き継ぎ時に聞き取りを行い、助言していく。 ・子ども110番登録を継続
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		1	5	・公共交通機関を使用する活動を実施した。	・地域に向けての情報発信、町内会入会、公園掃除などを通して交流
	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	1	1	・マニュアルは作成しているが、周知までは行っていない。	・マニュアルがあることを保護者にも伝えていく。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	1	1	・平日に実施している。 ・学童対象には特別実施していない。	・基本的に平日の実施が中心であるが、場合によっては土曜日にも実施出来るように計画を立てていく。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6				
	非常時等の対応	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している				該当なし ・身体拘束ガイドラインは事業所内に設置し、職員が回覧できるようにしている。
④⑫		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6				
④⑬		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	1		ヒヤリ・事故について冊子にして共有している。事例集は作成していない。	月ごとに集計したヒヤリハットを回覧し、再度事故発生がないように務める。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。